



重点課題 2

医療サービスへのアクセス向上

2030年
目標

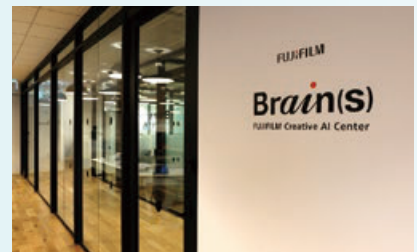
- (1) ITを活用した医師や医療従事者の負担軽減
- (2) グローバルヘルスに貢献する感染症診断システムの開発・普及
- (3) 新興国への診断技術指導と健康習慣の普及

急速な高齢化が進む日本や、人口増加・経済成長が進む新興国では、医療需要が増加し、医師や看護師などの人材不足と過酷な労働環境、医療サービスの地域間格差が課題になっています。また、開発途上国では依然として感染症による死亡率が高く、エイズ、結核、マラリアなどの伝染病根絶はSDGsの目標でもあります。富士フィルムグループは、「予防・早期診断・早期治療」の実現のために、これまで培った独自の技術や医療IT分野で蓄積された大量のデータとAI技術を融合させることで、医療環境の整備、医療従事者への貢献を目指します。

2018年度
の活動

【目標】医療従事者の負担を軽減するAI/IoTを活用したサービスの拡大・普及

- アカデミアとの共創で、健康をはじめとした社会課題を解決するより高度な次世代AI技術の開発拠点「FUJIFILM Creative AI Center 「Brain(s) (ブレインズ)」開設(2018年10月)
- 京都大学と共同でAI技術を用いた間質性肺炎^{*1}の診断支援技術の開発に成功(2019年4月)
- 医療AIの技術ブランド「REILI」初の製品として、AI技術を活用し診断を支援するAIプラットフォーム「SYNAPSE SAI viewer」を販売開始(2019年7月)



東京・丸の内内に開設された「Brain(s)」。AI技術の開発とともに、AI/ICT人材の育成も行う

【目標】開発途上国における結核の早期発見診断システムの普及

- 富士フィルムとFIND^{*2}が日本発の革新的な治療薬、ワクチン、診断薬の創出を目的とするグローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)を得て開発を進める、結核の高感度な迅速診断キット「TB-LAM」が第2期(2018~2022年度)に採択され、臨床試験を継続

【目標】新興国での検診システムの普及、医療環境改善の支援

- 2014年度にJICAで採択され、2017年度より開始したブラジル「遠隔画像診断技術を活用した医療連携普及促進事業」を継続実施(2019年3月終了)
- 南アフリカ、ミャンマー、キルギスなどで技術指導のためのワークショップを開催

^{*1} 間質性肺炎:肺に炎症が生じ、肺が硬くなる病気の総称。アスベストなどのじん肺のように原因が判明している間質性肺炎から、原因が不明の特発性間質性肺炎まで多岐にわたる。特発性間質性肺炎は治療が困難な指定難病

^{*2} FIND(Foundation for Innovative New Diagnostics):開発途上国に適した、感染症の新たな診断技術の開発と普及を目的とした活動を行っているスイスの非営利組織

今後の
活動&目標

- 「Brain(s)」を拠点に先進医療AI技術の研究開発・ソリューションの社会実装を加速
- 「TB-LAM」のWHO推奨及び製品化に向けてさらなる臨床試験を実施。「2030年までに結核流行終息」への貢献を目指す
- 新興国での検診システムの普及、医療環境改善のための教育指導の継続

医療IT分野におけるAI/IoTの活用

富士フィルムグループは2018年4月、医療画像診断支援、医療現場のワークフロー支援、医療機器の保守サービスまで活用できるAI技術の開発を進め、これらの領域で活

用できるAI技術を、「REILI(レイリ)」というブランドで展開していくことを発表しました。そして、その拠点として設立したのが、アカデミアとの共創で社会課題を解決する次世代AI技術の研究開発を行うFUJIFILM Creative AI Center